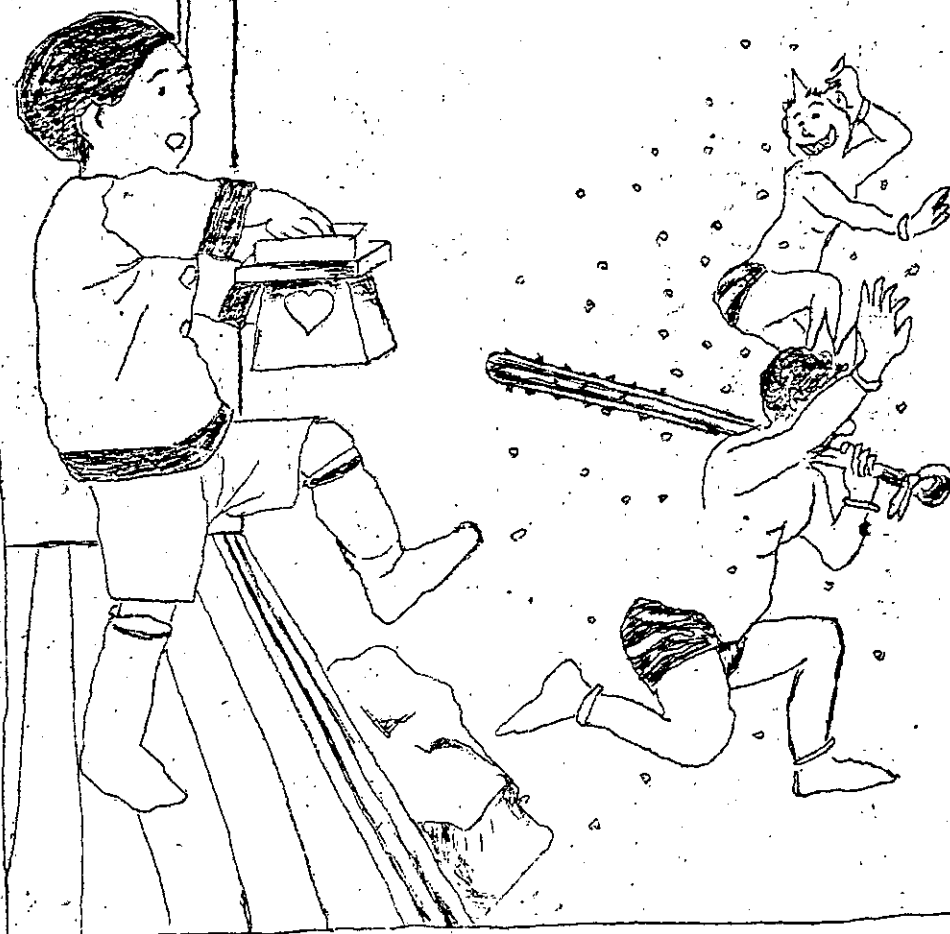


ナテシコ

二月号

「鬼ハ外、
福ハ内」



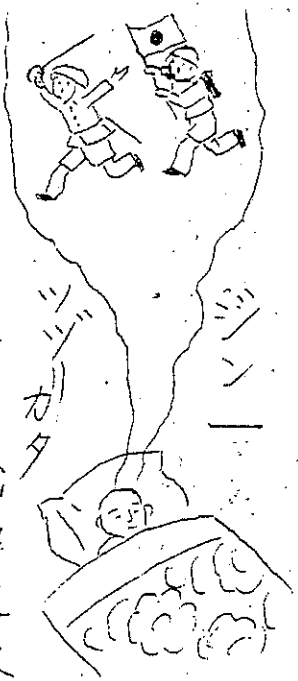
「嗚呼忠烈肉弾三勇士」

皆さんに存じますか、三勇士を？

昭和七年の二月二十日の早朝でしたぬ、上海事変にあの廟符鎮の鉄條網をこわしに爆弾と共に飛込んで我が軍の突撃路をひらいた勇士です。私達も此の三勇士におとらぬ立派な精神の人となりませう。

學校日誌

- 二月二日 新入児童ノ身体検査ヲ行ヒマシタ
- 二月七日 紀元節ノ式舉行終ツテ建國祭式カ盛大ニ行ハレマシタ
- 二月十六日 學藝會ノ總練習ヲ行ヒマシタ
- 二月十七日 保護者會同ノ節後ニテ盛大ニ學藝會ガ行ハレマシタ



ツツカタ

■ヘイタイゴツコノユメ 淺沼 正夫
ボクハリヨバウサンタチノヘイタイゴツコ
ニハイリマシタ。
アルバンヘイタイゴツコノユメヲミマシタ。
ボクハ中イデシタ。 ドンドンアガツテ大シ
ヤウニナリマシタ。 アル時センサウガアル
トイッタノデ。
「センサウデアルゾ」
トイツテ大ゼイアツマシタ。 センサウガ
ハチカリマシタ。 テキハテツバデウチマ
シタ。 イクガ早イカテキノタマニドントア
タツテシマヒマシタ。 ボクハ
「マシレタ」
トイツテ目ヲサマストオニイチャンガオシリ

ラブツテキマシタ

■花 淺沼 實子
私ウチニ花ノ木ガアリマス。 ソノ花ハニ
日ハキレイニサイテキマスガ三日タツトモウ
花ガオチテシマツテハツバカリニナツテキ
マス。 風ガフクトハツバカソヨソヨ右ノキ
ヤ左ノ方ニイツタリシテラレサウニナツテキ
マス。
二日バカリネルト花ノツボミガツイテ来マシ
タ。 ダンダン大キクナリマシタ。 シマヒ
ニソノツボミダツタノ花ニナリマシタ。
私トナアチヤントタカヤントソノ花ヲトリ
マシタラハアヤヤンガ
「ダレダ、花ヲミンナトツタ人ハ」
トオコリマシタ。
タカヤンガムカフノ方ニゲテイキマシタ。
ソコヘシゲキヤンガ来テ
「ジツケヤン、ソノ花ヲオフレ」
トイッタカス私ハ

「イヤダ」
トイッテヤリマセンデシタ。

シヨダウクワイ 内海 順子

私ハシヨダウクワイノハジメノ時ハ五トウデシ
タ。ソレデウレシクテタマリマセンデシタ。
サウシテゴハウビヲモラヒマシタ。ウチヘカ
ヘツテオカアサンニ見セマシタラオカアサンハ
「トウニナルヤウニ一シマウケンメイニ
シナサイ」
トイヒマシタ。

ソノツギニハ一トウデシタカラス私ハウレシク
テタラナクナリマシタ。ウチヘカヘツテ
オカアサンニ見セルトオカアサンハ
「モット一シマウケンメイニカキナサイ」
トイヒマシタ。オトウサンニ見セマスト私
ニセシクダサイマシタ。
私ハイマハ一シマウケンメイニカイテ井マス。

エンソク 宮川 京子

私ハ早くエンソクガ来レバイトタンシンド
マツテ井マス。ソノ時ナニヲモツテイカウ
カトオモツテ井マス。

「サウダ。ノリマキトキヤラメルトウデ
タマゴヲモツテイカウ」
トオモヒマシタ。ソコヘマサエサンガ来テ
「ナニヲカンガヘテ井ルノ。シユクダ
イデセウ」

「チガフヨ。エンソクノコトダヨ」
「ソレダヤ。アンタナニモツテイクノ」
トイッテカラス私ハ
「ノリマキトキヤラメルトウデタマゴヲ
モツテイクヨ」
トイヒマシタ。ソシテ
「マサエサンハナニヲモツテイクノ」
トギクト
「私ハマダワカラナイヨ」
トイッテカヘツテイッテシマヒマシタ。

ヲハリ



豆まき

二巻

ぼくは豆まきの日を待てておりました。いよいよその日にはなりましたので、
うれしくなりました。ぼくはかへて讀方の豆まきのところ
を讀みましたら、お母さんが「おれなり豆を一パイいって上げるよ」とお
じやうにお豆を一パイいって下さいました。もうしてすぐに神様にお供
へになりました。ぼくは早く晩になればいい、と思ひました。少し
うすぐらくなると、あたりでも、こちうでも、豆まきの聲が聞へて来まし
た。おとうさんが「保信うちでもそろくはじめるかぬ」といって、神さ
まからますを下して下さいました。ぼくは少しはづかしかつたけれど
思ひ切つて「福は内」と豆をまきました。

……ほりぐちやすのぶ……

私が学校からかへて見ると豆をばちくいておました。それで私はお父さんに、「私がまくわ」といひますと。そこへお母さんが入って来ましたので、「ユナ子が豆をまくといひたがまかせるかね」ときくとお母さんは「ええまかせて下さい。思ひ切つてやりしてみれば」とおっしゃいました。私は早く晩になればよいと思ひました。いよいよ夕方になりましたので、「はんをたべてそれから豆をまきました。それで私が福は内鬼は外」といひますと弟がついてきてまねをしました。なんといつかときいておたら「福は内鬼は外」といひました。するとお父さんが「かんしんにいへた」とほめました。お母さんがもうこれで一年をとったから一生けんめいあやしいおっしゃいました。

……ますたゆめ……

ニネン 一ノノニ

よこやまよとふみ

沼田喚子

ゆふへの豆まき
 おもしろかった
 ぼくが豆まき
 年男
 福は内鬼は外
 ぼくがまいたら
 弟もまねして
 福は内鬼は外
 ぼくはだんく
 おちゆうになつて

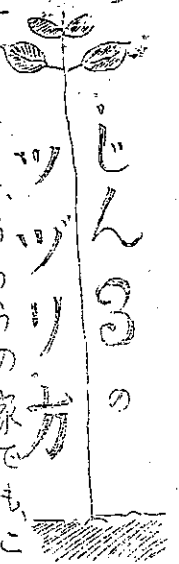
まいて行く
 すると
 かあさん
 おとうさん
 これで
 みんなは
 お年取る
 ぼくはうれしい
 ほんとに
 うれしかった

ぼくはぼく
 なった
 くだらせんが
 くだらを取って
 いぼつてきた
 赤はた 白はた
 ふつてきた
 私も行かう
 見に行かう
 はやくいかないと

けふは豆まき、
 うれしいな
 ぼくはうれしくって、
 たまらない。
 庭かひずりまはて、
 豆まきだ
 大きいわきして
 お父さんに
 おこられおこた
 まをくすわぐ
 大きいわき

しゅや・きよし
 まち／＼おこる
 お父さん
 豆まきだ
 ぼくはうれしい
 うんとまく
 豆まき、
 じゅきい
 あもしろい。

みられたい
 早く行こ、早く行こ
 あんまりはしると
 ころぶよ。
 しづかに
 はしりな
 早く行こ。



豆まき

奥山 巖美

晩に於いて、あちらの家でも、こちらの家でも、
 くにぎやかでした。私の家では、兄さんが豆まきを
 國中に悪い病がはやって、たんさんの方がなま
 國々へおふれして、神様へおいのりしました。その時
 介は冬と春の介れ目で、又豆は昔神様が米と一しよ
 つけにたつたもので、人間に大へん薬になります。そ
 の日に豆をたべて、丈夫になり、悪い病氣(鬼)を追
 自介の年より一つふんに、たべて、其の余りは鬼に
 ちふとふふことで、鬼は外へ、福は内へ、福は内とふ

紀元節

石田 テル

袖武天皇が悪者共を平らげて、お位におつきなされ
 九十五年になります。そして代々の天皇がおつきに
 何とありがたい、はありませんか、そして、皇室は
 私共の先祖は此の世界一の御本家にお仕へして、忠義

つと見てゐたがだん／＼かほゞさう
になつて見てゐられなくなつた。
僕はすぐに木のぼつてテフテフに
ついてゐたくものすをはらつてとば
してやつた。テフテフはうれしさを
にはねをひろげて、天に向つてとん
でいった。

吉田亮三

トマト
木村さんがたんせいしてくださつた
トマトがすく／＼とのびてすゞなり
になつて居ります。私は赤くなつた
ら第一番にほとけ様の上でやうと思
つてゐます。それから澤山なつたり
東京の親類にも送つてあげようと思
つて居ります。私が此の間もう赤い
のが一つぐらゐなつてゐるかと思つ
て畠に見に行つたがまだ赤いのはな

かつたので私は早く赤くなればい
と思つた。私は厚んたうにトマトが
すきてす。

内海幸子

お節分
お節分にはいつてゐると向ふの方で
くはうち、おには死と、ときこえ
来た。

あ、今日は節分だと思つた。其
時お母さんが豆をいり始めた。
兄さんがお母さんに「もうま
い、でせう」といふた。お母さん
「まいていゝま」といふた。
兄さんが始めた。
兄さんが「ふくは内、おに
豆をまくと私がひろふ。
私は十一になつたのだ。そうい
目をつむつて豆をつかんた。目

いて見るとちやうど十一つかめた。私
はうれしかつた。
兄さんもつかんだが自分の年はつか
めなかつた。

海野糸子

火事

ぞん／＼といふ音に目がさめた。
私ははねおきてみるとお父さんもね
えやお母さんもおきていらつしや
つた。私は「ねえやいまの音はなんだ
い」といつたらば「すさきが火事だつ
て」といつた。私はさふにかいがん
にいつてみたくなりました。私はね
えやといきました。いくと中もはん
しやうがジャン／＼と大村中にひび
てゐる。私は「きつと大きな火事だ
といひながら海岸へいつてみると空
は赤色でした。すさきの方をみると

さかんに火がもえてゐる。私はすさ
きのことがあたまにうかんできた。
お正月にすさきにいつてみた時あな
のなかに火やくがいつぱいはいつて
ゐた。火やくの所に立てふたがあつ
て、「ここてたはこきのおむべからすし
とかいてあつた。そこに火がもえた
りばすさきも扇浦もみんなだめにな
つてしまふと思つた。私はさふにこ
はくなつた。その時ねえやが「もう
さむくなるからかへらう」といつた。
私は又學校庭の空をみますとまつか
になつてゐた。私はうちにへつた
りお母さんが「まだはやいからねさ
い」といつた。私はそこにはいつたが
すさきの事が心配だつた。そのうち
上いつのまにかねてしまつた。もし
大村があんな火事ならどんなにやけ

たてせう。

土屋せい子

△お天気

此の頃はお天気がわるくてお父さんやお母さん又はおとなりのおばさんたちが心配しておます。

まつたくお天気がわるいと不自由だ。外で遊ぶこともできずせうかしくしたおせんたくもかはないのでお母さんが昨日おせんたくはだるさんでるのにかはあつたことが出来ない。といつて心配しておました。それで今日になつたりとてよいお天気で空は青々と晴れてよい日になつた。

私はうれしかつた。いまこでは雨降りばかりだつたのできがかくしやした。

今日のお天気は何とよいお天気でせう。木の葉はお目様にキラキラとてらされてゐる。わか芽はあかしくと光り風にさらさら〜と吹かれてゐる。

小宮山キヨ子

△或夜

日が暮れて海の向ふの扇浦にはキラキラとあかりが見え始めた。山の雲の間からお月様が丸いお顔でニコニコ波はキラキラとこがぬ色でなんともいへない。美しい波を見ておたがしゆくだいのあるのと思ひ出して家へかへつてきて見るとねこがニゴフといつてでむかへてくれました。つくえを出しておさうしを始めますとねこのどきなりをながりながらをばへよつてねこころがつて自分の體をなめてゐる。私は聞きながらおさうしをすんでから少女俱樂部と読んでおました。昨日行

尋常五年 綴方

大きくなつたら 藤 清

月日のたつのは早いものだ。此の間一年生に入學したと思つたらもう五年生になつてゐる。僕は大きくなつて競争に出て皇國のため立派な手柄を立てたいと思つてゐる。思へば今から五年前の四月一日一年生に入學した時などはイロハシホヘトもつがへ〜 讀んだものである。僕はあの頃を思ひ出すと笑ひたくなる。

今は先生や親のおかげで一生懸命勉強してゐます。大きくなつたら親や先生の御恩をお返しするつもりです。

お父さんの夢 岩澤潔子

私は昨夜夢を見た。それはお父さんが生き返つた夢でした。書簡送人である時でもお父さんの事ばかり思つてゐるからせう。

▲やがて来る 遠足 王樂しみにお待ちなさい。と同時に展覽會には立派な成績を出しませう。

急いで今までお父さんがゐた所へ行つて見たがお父さんはゐなかつた。私は夢だつたのかと思ひながら又お父さんのことを思ひ出した。お父さんの死んだ時お父さんをねがした所へ行くとこわいので急いでにげる。でもまだお父さんは死んだやうに思はれない。お父さんの事を思ふとすい涙が出てくる。おれは八十まで生きるのだと言つたことがいつでも頭に浮かびます。

くもの巢 内山登美子

炭を出しに物置に行つて出てこようとしたりひよこ私の顔にさわるものがあつた。何だらうと思つてさうと見るとくもの巢であつた。ずいぶん前につくつたものと見えて所々がやぶれた。リジミがかがつたりしてとてもよごれてゐた。くもは真中で虫のくるのをまつてゐる。

ガラスにとまつてゐた名も知らない虫をとり
まへて巢へなげてやつたら始めはにげたが餌
だと思つたのでせう。スル／＼と降りて来て
口から糸を出して虫をグル／＼巻んでしま
つた。私がくもに見とれてゐるとお母さんが
「炭はまだなの早く」と言つたので家に歸つ
た。又何かの用で物置に行つた時にはくもの
姿は見えなかつた。

病人の食へるもの

(牛乳 卵 重湯について)

病人には付きものの卵だの牛乳重湯は胃腸
に入つてどんな作用を起すか知つておきます
と、病人の食へるものを調理する時の参考にな
りませう。卵は新しい物を用ひる事は云ふま
でもありませんが調理の仕方では消化の時間が
次の様に違つて來ます。

- (一) 半熟卵
(二) 沸騰水に七八分間入れておいたものは一
時間四十分で消化されます。

(四) 火の上にかけた沸騰水に三分間入れたも
のは二時間五分かかります。

(二) 全熟卵

(一) 沸騰水に五分間ゆで裏こしたもので一時
間四十分。

(二) 全熟卵そのまま三時間かかります。

(三) 生卵 二時間十五分で全熟卵よりも早く消化
され

(四) 卵焼 二時間四十五分です。よく病人には卵
白を不消化物と考へて用ひませんが、卵白は滋
養になるのですから泡立て、調理しますと大変
消化がよくなります。(以下次号)

尋六の綴方

思ひ出

藤原芳子

今私の持つて居る下じきはもと神戸に居た友
達のものです。そしてこの下じきにはその友達
の美しい友情がこもつて居るのです。
私が小笠原に來る三日前私はその友達にその
事を告げました。すると友達は私に、私の青色の
下じきをくれと云ひました。私はこれでももら
つてくれるなら有がたい事だと、その下じきを
友達に上げました。友達は大へん喜んでかへつ
て行きました。次の日學校からかへると、見
なれない下じきと手紙が私の机の上のつて
居ました。開いて見るとそれは友達の手紙でし
た。そこには鉛筆の走りがきて
「藤原さん。貴女は遠い所へ行くのですね。この下
じきは私と思つてあちらへつれて行つて下さ
い。私もあなただの下じきを大事にします」と書

いてありました。私は今その下じきを見る度に
の友達のことを思はれます。

學藝會の感

金原くま

今まで苦心に苦心を重ねて練習した學藝會の劇
を、今日お客さんに見せるのかと思ふと、嬉しいや
ら恥かしいやらで胸が一ぱいになりました。
いよいよ私達の番になつて、第一幕はすぎ次第
私の出る幕がやつてきました。幕があくとお客さ
んの顔が西瓜でも一面にならべたやうに、こちら
をまじめに見て居ります。私はしやべり出すと、
言葉の一つ一つがふるえて居るのに気がつき
ました。普段は何の気もなしにしやべりから声
がふるえないが、今日は上手にやらうと思つたか
らこんなふるふるのだと思ひました。そして言
葉を續けて行くとなんかぬかしたと感しました。が
その内どく／＼と進んで幕が終つてしまひました。
後で考へたら、あ、ありがたうと女ふ所をぬかし
たのです。でも先生が割合によくできたと言つた
ので、顔中に喜びを浮かべながら家へかへつた。かへ

る途中にも上手に出来たねえ。泣かされたよ。と逢ふ人。に云はれたので嬉しいやら恥かしいやら顔が真赤になりました。

きらいな時間 間瀬千子

私は一番學課の中できらいなのは国史です。国史の時間があると私はいやで、たまりません。国史は大ぜいの人の名前が出てくるから、たゞ／＼して分りません。それで、私は鉛筆をけつたりしてあそびます。それから先生が「明日、い」と云ひはづめると面白、お話を聞いたら私はきくことにします。私はそんなに国史がきらいになつてきました。だから私は一つも国史が出来ません。これから一つと一心に国史を勉強させよう。

綴方 沖山富美子

私は小さい時から綴方が下手でした。人が上手にかくのを見ると私も上手になり度いと思ひますが、なかなか上手になれません。綴方の時間

に何か書かうと考へても考がまともならぬ、あきてしまつて、他の事を書かうとするくせがついてしまひました。それでも本をよくたりお話を聞くのは好きです。みななが上手に書いたものを先生に讀んでもらふと、その時は私もあのやうに上手に書かうと思ふが、どうしてもかかない。どうにかして上手な綴方がかけるやうになり度いと思ひます。

火事 原田正道

今朝の五時頃であつた。私がうとうと眠つて居るとどこからか半鐘の音が聞えて来た。とび起ると表通りを人々があつちだ、こつちだといふ音が走りつて行く。遠くを見ると一面に真赤だ。私はすぐ波止場にかけて行くと大ぜいの人か居る。すかさの方を見ると、まつかにやけて居る。消防組の人はぼんぼん持つて来て船に上つて居る。だん／＼夜は明け来た。

高一 良き朝 鈴木芳雄

夕を開けると外は未だうす暗いのに、雑は夜が明け、夜が明けると鳴いておる。望には星もあつた。二七と夜の名残をおし、次第々々と消えてゆく。東の空は白々と明けゆく。頃は人々もヨシヨシとほえて井戸端に、未だ雑はなつてゐる。何時もこのように仕事を、おえて學校に行く。日はもう高く山の上には、日を背に道を歩ま一つ、朝日の如く、さはやかに、たまほしきわ心なりけりと言ひながら校門に

自分 奥山サキ子

私はもう十五才となつた。胸圍は六三センチもあるが、かたしいことには、身長が少し足りない。私は、すばらしい生れつきでないから、あまり氣の荒々しい友達はいきらいである。着實な過厚で物事に熱心で、何でも進んで事をなす。互ひに相助け、此のやうな人がすきである。私は小さい時から、あまり親しい友はもつておない。今になつて親しい朋友を

つくりたいと思ふ。世の中に出て活動するには、交際を円満にしたいと思つてゐる。私は勉強なんかする時、一時は随分一生懸命にやるが、すぐにあきてしまふ。今後は益々根氣強く物事に熱心につくさねばならぬと思ふ。

僕は猫である 大道聖久

この間、僕が山にゆきますと、僕より強うな友達が出て来た。僕は、たまげて逃げた。ゆきましたが、追ひかけてきて、僕にけんかめをしかけました。ちやうど其の時、人が出てきて、僕の友達の方に、石をぶつたので、僕は、怒鳴いて逃げ出しました。ところが、追ひかけてきて、どうして、僕は、つかまつてしまひました。そして、僕を、だつこしてしまひました。僕は、やつと安心して、其の人の内へつれてゆかれて、其の家で、皆んなに、かはり

がうれておます。……次号につづくのです
まことみなさんも、おもしろいでせう

日高とい子

此の前の金曜日 綴方の紙を先生が
渡されて、あすまでにかいてこいと云はれ
たので、むづくりした。それから、これをサキ
に持ってゆくと云はれたので、綴方の紙を
サキの家を持って行った。サキさんの家から
歸つて、甲をすませ、題を考へたが、ど
うしても、よい考へが出ない。あせれば
あせるほど、なほよい題は考へ出されな
い。それで、氣を、おちつけから書くことに
した。すなわておたら、母が「おいとおいで
いよんだので行つた。それから又すぐ
題を考へたが、わからないうで「エーなん
でもい、」と思つて書き出した。



高二

夜 菊池 初枝

眠れく 母の胸に、眠れく 母の手に
淋しき夕暗を破つて、静かな悲しみを
念んだ聲が何處からともなく聞えて
来た。晝間のさわかしさはどこへ
やら、今夜の静かさは人の足音のどた
へかちな冬の夜ページをぬくる音も
はつきりわかる。机に向つてゐた私
は眠くなつたので外へ出た。
戸を開けると同時に、風が内に舞
ひ込む。何につけても空を眺める私
はくせえ空を眺めた。満月はもくも
くと遠く黒雲にさへざられてよく見

えない、椰子の木、棕櫚の葉の家、
まさに南国の一景色である。カチカ
チと夜廻の拍子木の音も遠くから聞
えて来た。明日も桜葉がある。宵から待
つてゐたフトンの中にもどり込んだ。

朝 浅沼 啓介

朝は何とも云へぬ気持ちよいものだ。
朝起きしてがラス産をあけると気持
よい風が体にふくとあたる。太陽は笑
ひながらあたり一ぱいに光を投げ
てゐる。顔を洗ふと又一層気持ちよい。
家で目覚時計と共に一せいに起き
る。牛乳配達には気持ちよさうに朝日を浴
びて各家に牛乳を配つてゐる跡がた
つにつれて人通りが繁くなる。何處か

た。和道は年長の方から打始めました。ドン
と音のする度と胸がドキンと一キリした。その
度に物どころから紅白の旗が出る。氣持が
よくある。いよいよ私の番が来た。夢中
で杖端につまみ出した。側についでおて下さる
小父さんが「打てよ」と言っていてさへてくれ
ました。「どうか當りますやうに」と心に祈りな
がりおらひを定めて思ひ切り列を列キました。
ドーンとはつと思つて向ふを見たりあり残念
な玉の附いた棒が左側に動いた。零卓だ。
次も又水も、でも一人でかくすよかつた。後
から打った人も零卓が多かつたから。

學藝會

一年 内海 慶子

學藝會學藝會と待ちに待った學藝會は去る
十七日に行はれました。昨日も雨かきり
とまり入梅期にでも入ったやうな様氣で

いだらうと心懸しておりましたが當分はからり
と来て氣持のよい日でした。
きれいに飾られた舞臺見物希見あり今日の
かさが思はれます。定刻前から入場者はつめ
けました。私達は今日の受持ち受任におこ
「畫からもおいでに打ちのていたら入場券は
せただけでよいのです。まくりかへしておせ
た。定刻にはなかと校長先生の開会の辭が
つてプログラムの順に行はれて行きました。
時限にはもう場内は一ぱいに打ちました。本
はなんだか側身よりも上手に出来たりと思
れました。そして一年生や二年生の方が却つ
と級生より上手なのは驚きました。私達は
今等の下手なのがはづかしくなりもう少し何
も一心に一つかりやらなければならぬと思
ました。
是刻午後三時半に盛會裡に閉会となりまし

御寄贈

- 一 キャンペンコ一枚
- 一 右金 一枚
- 一 紙鏡 一領
- 一 行燈 一灯
- 一 金五帛也

浅沼正夫君 から
石津盤 子さんから
橋本重男 君 かり
野坂邦治 殿 かり
讀賣新聞社支局 かり

右の通り學藝會 會用と幸多敷由寄贈下さりま
眞に有難く御座います。お陰様で盛會に終りま
朱礼をかり談上を以て厚く御礼申上げます。

昭和拾年貳月第百五拾四號

大村尋常

小學校

一

